

チム旭

印刷を支え加工を活かす

本社工場 マルチ部門 石橋 貴将

1998年(平成10年)、高校卒業後に新卒で旭紙株式会社に入社した石橋さん。勤続20年以上のベテランである石橋さんですが、仕事が嫌になったり、会社を辞めたりした経験はないといいます。入社当時のお話や失敗談を伺いながら、仕事への思いに迫りました。



——現在の業務内容を教えてください。

マルチ部門で主にカレンダーを作っています。もともとカレンダーが好きなので、美しく加工でき、完成度の高い品物ができるとうれしいものです。

——入社当時からマルチ部門で働いているのですか。

最初は折り部門にいました。私は入社当初からミスが多く、上司に叱られていました。チラシを機械で折るときに、折り方を間違えて反対向きに折ってしまうことがよくあったのです。入社して2、3年すると、カレンダー加工が忙しい時期はマルチ部門の手伝いに行くようになり、のちにマルチ部門に配属されたのですが、私はここでもミスをしてお叱りを受けました。

——どのような失敗でしょうか。

今でもよく覚えているのは、12、3年前にした失敗です。カレンダーの仕事では、加工の済んだカレンダーを箱詰めするのですが、そのときに付属品も同梱します。カレン

——入社してまだ日が浅い、若い社員の方々にメッセージをお願いします。

入社したばかりの若い人たちは、これから何度も注意を受けると思いますが、注意してください。嫌いだから、などという短絡的な考えは持っていません。叱っている相手のためを思って話をしてください。落ち込むかもしれませんが、原因は何だったのかということに焦点を当ててみてください。原因を知って改善していくことが大切だと思います。

旭紙工で、20年以上にわたり仕事に励んできた石橋さん。自分のために思い、叱ってくれた人々への感謝を胸に、これからも自身の仕事に取り組んでいくことでしょう。



ダーと同数の付属品を入れるのが基本です。しかし、そのときは何を勘違いしたのか、カレンダーが複数入った箱に、付属品を1セットしか入れなかったのです。何箱か出荷してから気づいて、血の気が引きました。すでにお客様の手元に届いた箱もあり、クレームも来ます。当然上司からは叱責されましたが、クレームの対応は全て上司がしてくださいました。

——長く仕事を続けてこられた理由をお聞かせください。

叱られることはありましたが、私に原因があるから叱られるのだと理解しています。カレンダーの大失敗でも注意されましたが、もうしない

ようにと気を引き締めました。私の不始末なので、ミスをしないように努力するだけです。それに、上司は仕事を離れたらいろいろな気遣いをしてくださいました。決して私が嫌いわけではなく、「愛ある指導」です。旭紙工に限った話ではありませんが、職場の人間関係が良好なら、仕事が多量でも続けていけるものだと思います。

——ミスを指摘されると、「この仕事に向いていないのかもしれない」と感じる方もいるかと思いますが、そう感じたことはありませんか。

すでに退職された上役の方が、以前このようなことをおっしゃっていた



ました。「この仕事に向いているか向いていないかは、今でも分からない」と。向いているか否かは一生分からないが、仕事のクオリティを上げるために努力を惜しまないことが大切なのだ、というお話でした。考えるべきは、どのように努力を続けていくかということなのだと思います。

今までも考えてきましたが、効率良く仕事を進めるにはどうしたら良いか、これからも知恵を絞っていいと思うっています。無駄な動きを省き、いかに時間短縮を図れるか、この先も模索し続けるつもりです。

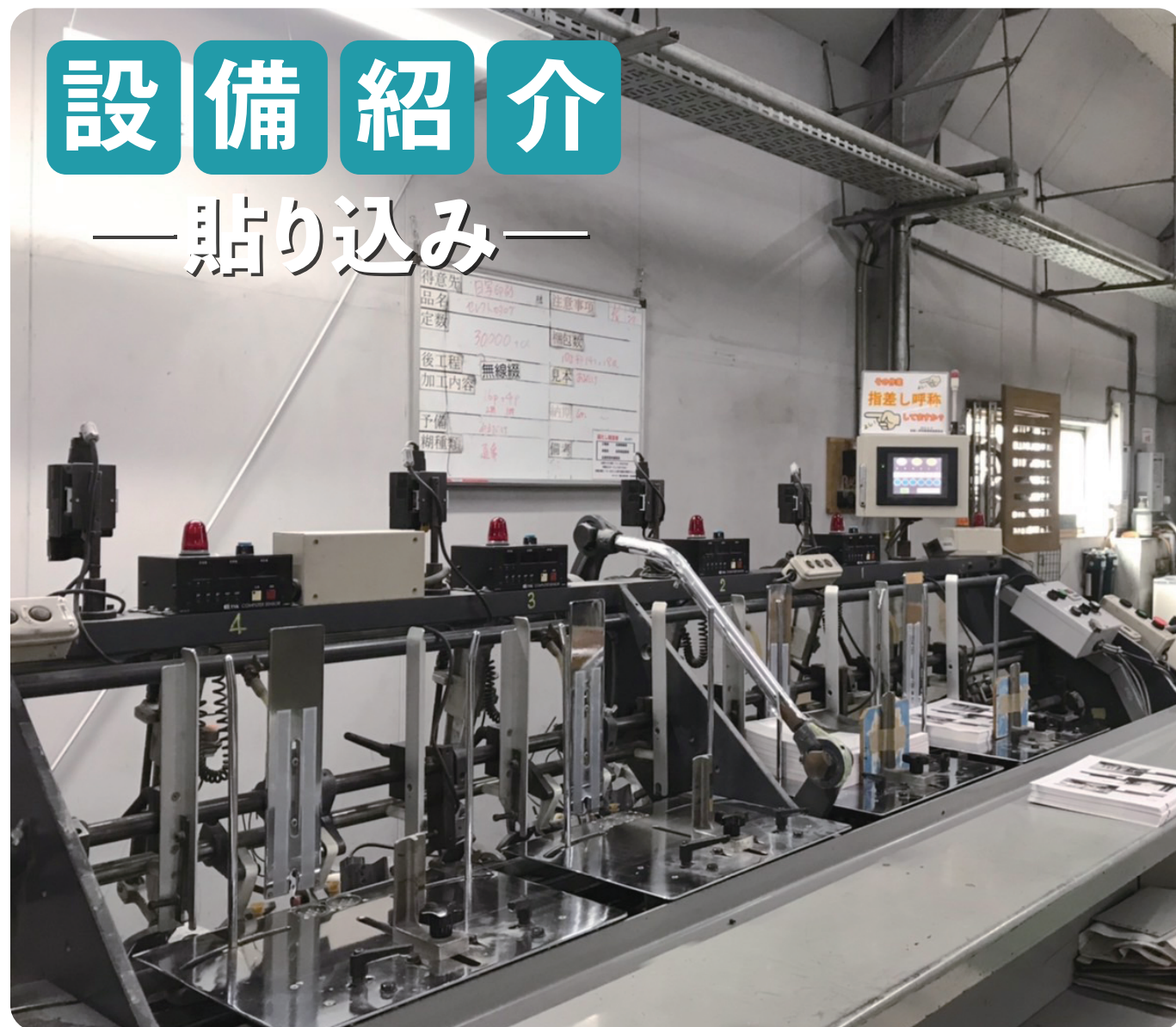
企業情報

- ◆創立年：1983年1月
- ※創業：1963年
- ◆年商：15億円
- ◆従業員数：200人

※2018年12月実績

設備紹介

—貼り込み—



私が紹介します!

本社工場で何十年にもわたって活躍する貼り込み機。ページ数の多い冊子や、イレギュラーなページ数の冊子を製本する前に、この機械で下準備を行います。今回は有松さんに、機能や注意点、今後の目標について伺いました!



ありまつ けんじ
有松 健二さん
工場本部 本社工場長

特殊な製本の
事前準備は
お任せあれ



Q.どのような機械なのでしょう?

印刷された紙同士を貼り合わせる機械です。通常、本を作る際、8ページ、16ページ、32ページといった4の倍数であれば、印刷された時点で本のような状態になります。ただ、2ページ(紙1枚)や4ページ(紙2枚)のものは、通常通りの製本が難しく、事前に別の作業が発生します。例えばA4サイズの印刷物であれば、A4サイズ8枚分が大きな1枚に印刷された状態で納品されるので、それをこの機械で切り、通常の8ページや16ページのものと同じに貼り合わせます。この作業は貼り込み機にしかできません。具体的には、機械に付いたワイヤーで紙の端に一直線に糊を打ち、貼り合わせる仕組みです。また、間にハガキやシールなどの小さいものを挟み込む場合の製本にも、この貼り込み機が欠かせません。つまり、最終的な製本を可能にするための事前準備に活躍する機械なのです。

昔は当社の
主力機
だった

免許は不要!

使いこなせる
ようになるまで
1か月

糊の乾燥は
厳禁!

目指せ
自動化

Q.現在の設備はいつ導入されたものですか?

私が入社するずっと前の、何十年前からあるようです。4機ありますが、特殊な使い道に特化したものなので、常にフル稼働しているわけではありません。ただ、私がアルバイトで働いていた頃は、当社に現在のような製本設備はなく、この機械で貼り込み作業だけをしていました。主に他の製本会社の製本の前作業を受注していて、当時扱っていたのは、かなりのページ数になるタウンページなどの電話帳や分厚い印刷物です。32ページを1単位に、それを100や200程いくつも貼り合わせて製本したのを憶えています。現在も4機揃っているのは、当時の名残です。

Q.使用するには資格や免許等は必要でしょうか?

資格や免許は必要ありません。ただ、糊を扱うので、作業しているうちにのりで周りが汚れます。こまめに周りを掃除しながら作業しないと、紙の濡れが発生してしまうので注意が必要です。単純な機械なだけに、こういった手のかかる部分もあります。

Q.現在この設備を使用できる方は何名いますか?

貼り込み作業ができる人は10名くらいです。それほど難しい機械ではないので、みなさん1か月位で慣れるのではないのでしょうか。ただ、他の機械と同様、オール自動ではないので、作業中はずっとその場に付いている必要があります。



Q.使用上での注意点はどこでしょうか?

糊(のり)を付ける作業には特に気を遣います。ワイヤーが容器から糊を拾い上げて紙に打ち付けるのですが、その際、絶対にワイヤーの動きを止めてはいけません。ワイヤーに付いた糊が乾き、その乾いた糊が機械の内部に循環すると、ノズルが詰まって大惨事になってしまいます。

Q.今後の目標

当社では、「バラバラブック」という特殊な製本もしています。その際にも、この貼り込み機が活躍します。バラバラブックは収益率の高い仕事であるうえ、他社ではできません。今後さらに受注数が増えれば、4機をもっと稼働させて対応し、会社としても潤うのではないのでしょうか。ただ、その分機械を操作する人手も必要になるので、いずれ全てを自動化できるといいなとも思っています。

